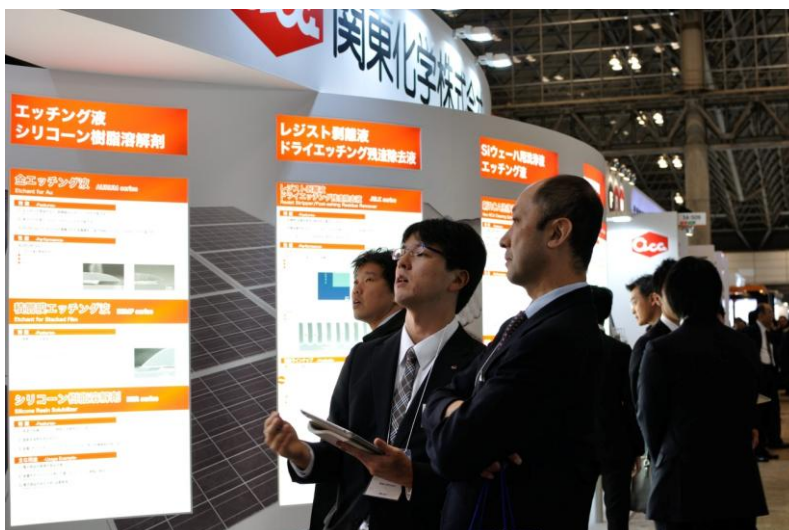


関東化学株式会社
電子材料事業本部
技術部 開発課
澤野 直行

現在、関東化学株式会社の電子材料事業本部 技術部 開発課に所属しています。
仕事は電子機器に用いられる半導体やフラットパネルディスプレイ (FPD) を製造する工程で必要なエッチング液や洗浄液といった薬液をお客様に提供しています。
主に私は技術面をサポートしており、お客様の材料に合った処理条件を検討し、各種薬品の提案を行います。

《誠意という気持ち》

私が研究室で改めて学んだことの一つ。学生時代に学ぶべきことの一つだと思う。何に対してもそう。「挨拶」をし、「約束事」を守り、「一生懸命」やり、結果を「報告」する。当たり前のことだが、ただやるのと「誠意」を持ってやるのとでは相手の受け取り方はまるで違



う。どうやれば相手と楽しくできるのか。自分の仕事を充実させたいなら、まずは周りの環境を良くすることが大事。

《何を学び、何を活(生)かすか》

「視野を広くしてみる」、「周りをよく見る」と言う人が多くいます。「学生時代にあれをやっておけば…」と耳にする機会も少なくありません。学生の皆さんは言われませんでしたか？

そうは言うものの、では実際何をやれば良いのか分からないものです。私も良く分かりませんでした。ただ社会人になったら言うのです、「学生のうちにやっておけば良かった」と。

「社会の仕組みってなんだろう」

学生時代にお金について学んでおけば良かったと感じる。お金というものは社会人と

って重要なファクター。学生との価値観はまるで違うものを持っている。アルバイトは仕事を行い、そこで見合った分をアルバイト代としてもらう。社会人は違う。雇い主に労働力を与え、雇い主からは給料をもらうという単純な話ではない。

「給料は誰から貰う？」といった質問に答えは社長から？会社から？一般的な答えだが、違う。製品を提供した営業の人から。私たちの労働に対してお客様から給料を頂くといった答えが想像できないだろうか。社会の仕組みは単純であり複雑に絡み合っている。そういったことに気付かない人が多い。

《挑戦することの楽しさ》

社会人になってからは「正解」はなくなってしまう。結果的に「成功した」、「上手くいった」ということはあるだろう。やってみなきゃわからないというのが多々ある。挑戦するのは難しく、勇気がいることだ。「失敗したら…」、「誰かがやってくれるかも…」と逃げればばかりいて楽をしたいのであれば社会人としては失格。失敗してもなんとかしてもらえる人がいる内にたくさんの事に挑戦をし、自分を高めてみるのはどうだろうか。たくさんすることに挑戦するのは大変な道のり、それが面白い。目をつぶってでも手を上げて挑戦。私は学生の時に考えて行動に移すのに時間をかけていた。また、そういったことを考える時間も好きだった。だけど、今はその考えている時間ももたない。挑戦するのは楽しいことだから。

学生から変わった自分は、幼い時の感覚が戻ったこと。何でも挑戦することに楽しい。挑戦を続けていくことで成長していくことが楽しい。知らないことを体験するのが楽しい。学ぶことが楽しい。だから私は「やります」と笑顔で元気よく返事をする。挑戦することにドキドキとワクワクをもって成長していきたい。